

[成果情報名] 「させぼ温州」のヘソ突出果の要因

[要約] 「させぼ温州」のヘソ突出果は、6月中旬～下旬から発生する。また、ヘソ突出果は、7月積算降雨量が多い年で発生が多く、若樹齢ほど発生が多い。さらに、果心が大きいほど発生が多い。

[キーワード] させぼ温州、ヘソ突出果

[担当] 農林技術開発センター・果樹研究部門・カンキツ研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 指導

---

[背景・ねらい]

「させぼ温州」は、果実の果頂部の突出症状であるヘソ突出果の発生が、他の品種と比べ多くみられ（写真1）、収穫や選果時に、突出部の衝撃で果頂部が傷んで腐敗しやすい。そこで、ヘソ突出果の発生要因を解明する。

[成果の内容・特徴]

1. 「させぼ温州」のヘソ突出果は、6月中旬～下旬から発生し、7月下旬～8月上旬に最大となる（図1）。
2. ヘソ突出果の発生率と6月積算降雨量に高い負の相関、7月積算降雨量に高い正の相関があり、梅雨時の降雨が後半に多い年で、発生率が高い（表1）。
3. ヘソ突出果の発生率は、若樹齢ほど高く、高接ぎ樹より苗木樹で、さらに直花果より有葉果で高い（図2）。
4. ヘソ突出果の突出の高さと果心の大きさに高い正の相関がある（表2）。

[成果の活用面・留意点]

ヘソの突出程度が大きい果実は、商品性が低いものが多いので優先的に摘果する。

[具体的データ]



写真1 「させば温州」のヘソ突出果

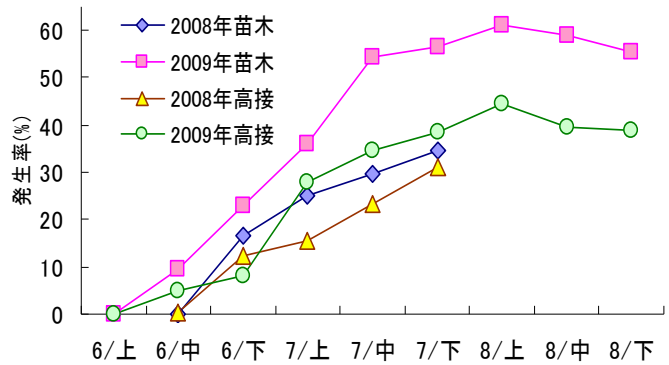


図1 「させば温州」のヘソ突出果発生率の推移

表1 「させば温州」のヘソ突出果発生率<sup>2</sup>と積算降水量の関係

年	2007年	2008年	2009年	単相関係数
ヘソ果発生率(%)	55.0	31.0	44.5	—
6月積算降水量(mm)	133.5	405.0	170.5	-0.947
7月積算降水量(mm)	429.5	72.5	308.0	0.994
8月積算降水量(mm)	156.5	186.5	99.0	-0.404

<sup>2</sup>発生率は、高接ぎ樹を調査

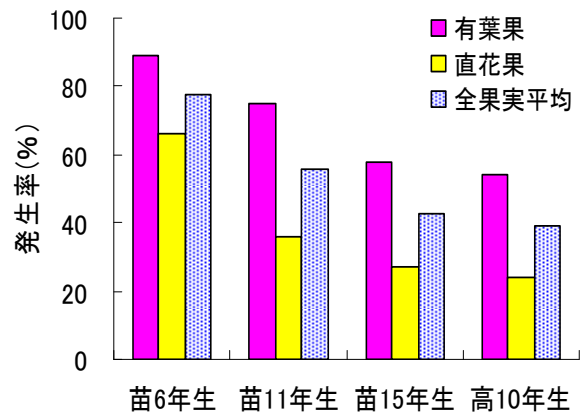


図2 「させば温州」の苗木樹の樹齢別および高接ぎ樹におけるヘソ突出果の発生率(2009年)

表2 「させば温州」のヘソ突出果突出高と果実形質との関係(2009年)

調査樹	果こう枝			果径指数	果心長 <sup>2</sup>	
	果こう径	長さ	着葉数			
単相関係数	苗木樹	0.302	0.192	0.264	0.201	0.759 ** <sup>y</sup>
	高接ぎ樹	0.398	0.068	0.345	0.169	0.632 **

<sup>2</sup>果心長は、長径と短径の平均

<sup>y</sup>\*\*は t 検定により 1% の水準で有意差あり

[その他]

研究課題名 : 長崎ブランド「させば温州」の特性を発揮する栽培技術の確立  
 予算区分 : 県単  
 研究期間 : 2008～2012 年度  
 研究担当者 : 荒牧貞幸、林田誠剛